大学院特別講義

（医歯学先端研究特論）（生命理工学先端研究特論）
（医歯理工学先端研究特論）

１．講　師　　理化学研究所　脳科学総合研究センター
適応知性研究チーム　チームリーダー
藤井　直敬　先生

２．演　題　　脳にとって現実とは何か？
-Substitutional Reality（SR）system-

３．日　時　　平成２７年５月２２日（金）　１８時００分　～　２０時００分

４．場　所　　１号館６F　歯学部演習室１・２

５．内　容

これまでの VR,AR 技術は、仮想環境を現実に近づける事を目指していた。しかし、それらの環境で立ち上がるリアリティは現実のそれとは明らかに異なる。一方、我々の　Substitutional Reality（SR）system は、現実から仮想へのスムーズな移行を実現することによって、現実感を保ったまま現実と仮想の間を自由に往復する事が出来る。本講義では、脳にとって現実とは何かを議論し、SR 技術が開く新しい世界の可能性を探る。

6 回目となる今年も満員御礼の藤井先生の講義。「現実と仮想の境界がなくなる？」という刺激的なテーマで、現実と仮想を地続きにする SR システムのお話を中心に、脳がどのようにして「現実」を捉えるかを講義して頂きました。ヒトが捉える現実と言うものは実は随分あやふやなもので、SR システムで「自分が感じていることや信じること」を揺らがせるのは技術的には簡単になったそうです。「自分がそこにいる」という感覚を揺さぶられた時に最後に信じられる cue は己の身体だという事実は印象的でした。さらに SR システムは主観的な体験を生み出すことも可能なそうで、そこには visuo-motor coupling が重要になり、記憶のベースになる spatial map の関与があるのではと言うお話も目から鱗でした。現実は絶対的ではなく、relative で subjective。同じ事象を体験してもその人ごとに subjective reality は全部違い、「現実は共有していない」ということがよくわかりました。さらに SR 体験の普及版としてハコスコというスマホを応用した装置を開発され、研究のみならずベンチャー企業としても大成功されている藤井先生。来年はどこまで夢を現実にされておられるか、今から楽しみです。

講義後の懇親会も辛口中華のお店で盛り上がりました。